

「日本ジオパーク新規認定現地調査」が無事終了！

生涯学習課・市史編さん室 田村 公利

8月19日(木)9時40分から【竜串ビジターセンターうみのわ】での標記の審査に関わり、「防災・教育関係者の意見交換会」が開催されました。土佐清水市ジオパーク推進協議会学術アドバイザーとして郷土史の部分を中心に「土佐清水ジオパーク構想」に関わってきた経緯から私もこの意見交換会に出席させていただきました。

令和元年度から、土佐清水ジオパーク推進協議会を中心に危機管理課・生涯学習課・郷土史同好会・自然史研究会が市内に点在する自然災害碑（地震津波・水害・台風）などを悉皆調査しました。これを報告書にまとめ、碑文の翻刻・内容の通解・計測・写真撮影・分布図作成などを進めてきました。

この成果を文化財審議会に報告、協議が重ねられてその答申が市定例教育委員会に提出・承認を受けて、令和2年11月市の無形文化財（歴史資料）に登録となりました。近世から近代にかけての市域自然災害碑群として下ノ加江5基・中浜2基・三崎2基・下川口1基の計10基を指定し、保護していくことになりました。

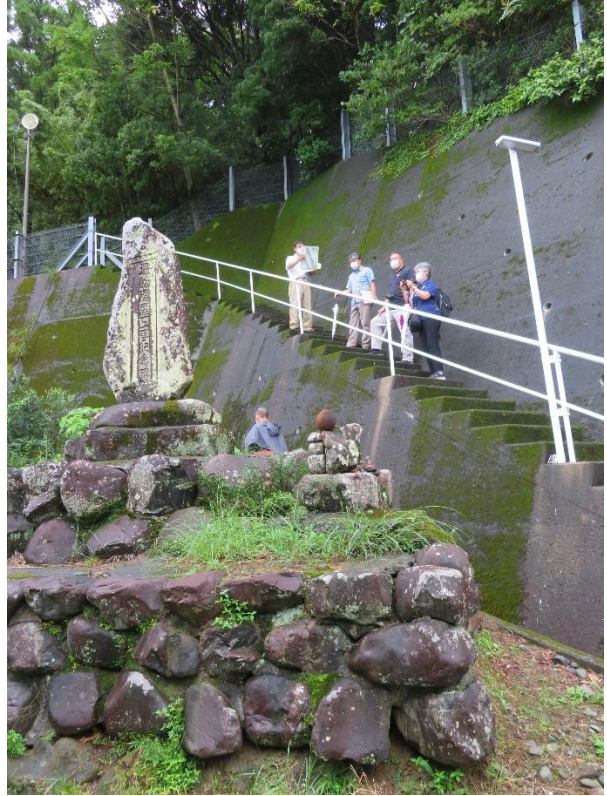
今回の現地審査では、防災・教育関係者の意見交換会の前にアドバイザーである田村が、JGC副委員長・宮原育子氏（宮城学院大学教授）、JGC委員・田中裕一郎氏（産業技術総合研究所）、JGC委嘱・松原孝典氏（兵庫県立大学大学院講師）の3人の調査員の方々に指定された2基と三崎浦震災供養石仏を合わせた3基を中心に三崎浦地区の巡検とご案内をさせていただきました。



↑3人のJGC調査員を三崎浦震災供養石仏(三崎浦地区所在)に案内する。



↑ 三崎川十字橋碑



↑ 三崎川堤防復旧記念碑

◆次の（１）～（３）をポイントにご案内しました。３名の調査員の皆様には熱心にお聞きいただきました。

- （１）三崎浦地区のある次の３基の自然災害碑を中心に案内
- （２）三崎浦の中世～近世にかけてのトピックを紹介
- （３）三崎川の旧河道を地図上で確認

（１）３基の自然災害碑（三崎浦地区に所在）とは？

①三崎浦震災供養石仏

嘉永七年寅年地震（安政南海地震）の規模を示す銘文の記載がある。

②三崎十字橋碑

安政南海地震発生の日

火を消し家出ること（地震災害における注意点を碑文に刻む）

③三崎川堤防復旧記念碑

大正 9 年 8 月 15 日に発生した豪雨災害で三崎川堤防が決壊して三崎浦集落が洪水となり、甚大な被害が発生した。この災害を乗り越えて堤防復旧工事を完成させたことが漢文調で刻まれている。

（２）三崎浦の中世～近世にかけてのトピックとは？

- ・中世三崎城跡が集落北東部の山塊上に所在している。加久見氏の支城である。
- ・文化 5 年(1808)伊能忠敬が測量のため 2 泊 3 日滞在する。

- ・文化 11 年(1814)大庄屋・沖市左衛門が義倉(飢饉に備えた備蓄庫)を創設する。
- ・近世、以南一帯の郷の中心が三崎村であった(浦の中心は清水村)。
- ・近代に入り、明治 32 年(1899)幡多汽船株式会社が設立。三崎浦にその本社が置かれた。宿毛⇒柏島⇒古満目⇒西泊⇒貝ノ川⇒三崎⇒清水⇒中浜⇒松尾⇒下ノ加江⇒下田⇒高知港へと運行した。また、愛媛県吉田町の製糸業者井上豊太郎が社長となり、現在の三崎小学校敷地東側に株式会社以南製糸工場が設立された。ここには地元三崎地区はもとより現在の月灘地区(現在大月町)・下川口地区・清水地区などから 125 名の女工が集められて就業した。製品は海路で神戸の貿易会社まで輸送され、そこから海外に輸出された。昭和 4 年(1929)の世界大恐慌以降は徐々に衰退し、昭和 10 年代まで工場は稼働していたが、その後、倒産した。
- ・昭和 11~13 年、三崎川の河身変更がなされる。
- ・昭和 22 年、三崎村⇒三崎町(町制へ移行)。
- ・昭和 29 年、三崎町・下川口町・下ノ加江町・清水町 4 町合併
⇒土佐清水市市制発足

(3) 三崎川の旧河道を地図上で確認



↑①②③とも三崎川旧河身(①古い時代、②中世~近世、③近世~近代)
(国土地理院撮影航空写真に加筆した。)

戦国時代	江戸時代末	明治時代	大正時代	昭和時代
<ul style="list-style-type: none"> 天正十七年 加久見左衛門大夫の領地 一五八九 	<ul style="list-style-type: none"> 文政五年六月五から六日 伊能忠敬ら一行が宿泊 一八〇八 一八〇八 	<ul style="list-style-type: none"> 一八八四 一八八九 明治二十二年 三崎村発足 一八九九 	<ul style="list-style-type: none"> 大正九年九月以南製糸工場設立 三崎浦に本社日高川丸が運行 明治三十二年 幡多汽船株式会社設立 一八九九 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和二十九年 市制発足 一九五四 昭和四十七年 三崎町となる 昭和四十七年 太平洋戦争終戦 一九四五



「株式会社幡多汽船」の本社が三崎浦に置かれた三崎村が株数が最も多かった **日高川丸** 宿毛・柏島・古満目・西泊・貝ノ川・三崎・清水・中浜・松尾・下ノ加江から下田を経て高知港に直行した。 **明治 32年**

以南製糸工場 **大正9年9月** 清水・三崎・下川口・月灘から女工125名

●**三崎浦震災供養石仏**
安政南海地震の起こった時刻・津波規模などを碑に刻む。被災者死亡者の供養。

●**三崎十字橋碑**
安政南海地震の起こった年月日と震災における注意点

●**三崎川堤防復旧記念碑**
大正9年8月15日に発生した豪雨災害の状況と堤防復旧

竜串ビジターセンター「うみのわ」